

【 設問アプローチ 】

[20 - B]

問1 : ① [設問チェック] 傍線部の、本文中における〈 意味内容 〉を答える問題であることを把握する。

→ [アプローチ] 本文読解中に、文脈から傍線部の意味内容を読み取り、
〈 根拠 〉となる内容にチェックを入れておく。

その上で、本文を一通り読み終えた後で、本文中のチェックと選択肢文の内容とを照らし合わせて、解答となる選択肢を吟味する。

② [本文読解 - a] 傍線部の内容を確認すると、傍線部の内容は「休息を」と「封印する」の2つの文節に分かれていることが分かる。
これら2つの文節の〈 意味内容 〉を、それぞれ本文から明らかにする。

まず、「休息」の〈 内容説明 〉については、12行目～14行目にあることが読み取れる。この部分には「ラベル」というキーワードがあるが、この言葉の〈 内容説明 〉は8行目と9行目の辺りでなされている。

次に、「封印する」の〈 内容説明 〉については、14行目～16行目の辺りにある。

傍線部の少し前の内容も確認してみると、3行目には子供たちが教師に対して「脅威」や「怖れ」といった感情を持っていることも読み取れる。

以上を踏まえて、傍線部の〈 内容説明 〉をまとめると、
『子供たちは、教師に対して脅威や恐れといった感情を持っているが、「尊厳に値するもの」というラベルを時に剥がして試みることで休息（≒緊張の緩和）を獲得し、また不都合を察知するとラベルを張りなおして、その休息を封印している（≒教師の地位を回復させている）』ということになる。

③ [本文読解 - b] 文脈から、39行目～42行目の辺りの内容を、
傍線部の〈 内容説明 〉として見てとることができる。
特に40行目辺りの「現在は、現在のためにだけ存在するようになる」という表現は、
傍線部の直接的な言い換え表現と考えることができる。

④ [設問読解] ②と③でそれぞれ確認した傍線部の〈 内容説明 〉を設問の〈 根拠 〉として、
本文の内容を適切に説明している選択肢を、解答として選ぶ。

問2 : ① [設問チェック] 傍線部について、〈 内容説明 〉が求められていることを把握する。
その上で、傍線部中の内容を確認すると、「賢い子供たち」、「前者」、「後者」という
キーワードがあるので、それぞれの〈 内容説明 〉を本文から明らかにする。

② [本文読解] ①で確認した傍線部中のキーワードの〈 内容説明 〉を本文から見てとると、

「賢い子供たち」の〈内容説明〉は12行目～16行目にある。

また、「前者」と「後者」はそれぞれ指示語の機能を持っているが、文脈から「前者」は18行目の「鈍感さのために」、そして「後者」は19行目の「知ろうとしない依怙地さのために」を指していることが分かる。

- ③〔設問読解〕②で確認した傍線部の〈内容説明〉を設問の〈根拠〉として、本文の内容を適切に説明している選択肢を解答として選ぶ。

問3 : ①〔設問チェック〕傍線部について〈内容説明〉が問われていることを把握する。

また、設問文中に「本文全体の内容をふまえて」とあることにも留意する。

→〔アプローチ〕本文読解では、傍線部の〈内容説明〉を傍線部の前後の文脈だけで把握するのではなく、本文全体を通して求める意識が必要になる。

本文全体を通して読解したうえで、傍線部②の内容が本文の中でどのような位置づけにあるのかを考える。

- ②〔本文読解〕①を踏まえて本文全体を読解すると、本文の構成は〈前半：教室の場面（現在）〉と〈後半：白井教頭との思い出（過去回想）〉に分けられることが分かる。

設問文に「本文全体の内容をふまえて」とあったことから、傍線部②の「彼が、何を証明したかったのか」については、後半の〈過去回想〉を踏まえて考えることが必要であると考えられる。

〈過去回想〉では、秀美と白井教頭との交流が描かれており、秀美が教師としての白井教頭の人柄に感銘を受けていることが読み取れる。

また、秀美が「血の味」から「不思議なあたたかさ」を白井教頭から教えられたことも押さえておく。

一方で、前半の〈教室の場面〉では秀美と担任の奥村との衝突が描かれている。本文中の〈心情〉や〈描写〉、或いは内容説明を踏まえて考察すると、前半の奥村と後半の白井教頭とが対比的に描かれていることが分かる。

以上を踏まえて、傍線部②の〈内容説明〉を考える。

- ③〔設問読解〕②で確認した本文の構成や〈内容説明〉を、適切に説明している選択肢を設問の解答として選ぶ。

問4 : ①〔設問チェック〕傍線部に関して、〈白井教頭の気持ち〉が問われていることを把握する。

- ②〔本文読解〕傍線部③の前後の文脈を確認すると、80行目から『「先生は、どう思うんですか？」秀美は、もどかしそうに尋ねた。』という内容があり、これに続いて傍線部③があ

ることが読み取れる。

ここで、秀美が「もどかしそうに」していたという〈描写〉が示されているが、これについてはリード文でも「彼はいつも自分の感じたままに行動してしまう」という〈内容説明〉があるので、これを秀美の人物像として捉えることができる。

文脈から、秀美の質問を〈きっかけ〉として、傍線部③の内容があることが分かる。傍線部③の内容としては、「微笑」という〈描写〉があるが、これは先ほど確認した傍線部の直前からの流れを踏まえると、秀美の言動を白井教頭が好ましく感じている表現であることが読み取れる。

続けて、傍線部から傍線部以降にかけての内容を確認すると、秀美の質問を受けた白井教頭がワイシャツの袖をまくって、子供たちに問いかけている様子が描かれている。このことから、白井教頭が子供たちにみんなで考える機会を作っていることが読み取れる。

- ③〔設問読解〕②で確認した傍線部前後の場面の経緯と、白井教頭の言動を踏まえて、傍線部における〈白井教頭の気持ち〉を読み取り、本文の内容を適切に説明している選択肢を解答として選ぶ。

- 問5 : ①〔設問チェック〕傍線部に関して、〈内容説明〉が求められていることを把握する。
その上で、傍線部中の内容から、その〈内容説明〉を明らかにすべきものを確認する。
(1)「不思議なあたたかさ」とは、どのようなものか？
(2)「いとおしさ」は、どのような〈心情〉なのか？

- ②〔本文読解〕まずは、傍線部までの物語の展開を押さえる。
白井教頭の腕に噛みついた秀美は、96行目の辺りにあるように「口の中が生あたたかく、錆びたような味」を感じている。
それに続く98行目からの内容では、秀美と白井教頭の会話の様子が描かれており、この中で白井教頭は、100行目「それが、生きているってことだよ」や、103行目「生きてる人間の血には、味がある。おまけに、あったかい」などと秀美に語りかけている。

そして、113行目からあるように秀美は「舌に残る血の味を何度も反芻し」、白井教頭の言葉を「自分は、生涯、忘れることはない」と感じている。
ここまでの内容を踏まえて、傍線部中のキーワードの〈内容説明〉を確認する。

「不思議なあたたかさ」は、直前に「喉に移行する」とあることから、白井教頭の血に対して秀美が感じたことであると分かる。そこから、白井教頭の血に関して説明された95行目～112行目の辺りの〈セリフ〉や〈描写〉などをこのキーワードの内容を理解するための〈内容説明〉として見てとることができる。

次に「いとおしさ」については、傍線部から「不思議なあたたかさ」への感情であることが読み取れるので、秀美が白井教頭の血を感じた体験を通して、感じたことを示した内容を確認する。

113行目～115行目にこの体験について秀美が感じたことが〈描写〉されているので、この部分を「いとおしさ」の〈内容説明〉として捉える。

③〔設問読解〕②を踏まえて、本文の内容を適切に説明している選択肢を、解答として選ぶ。

問6 : ①〔設問チェック〕「本文の特徴」について答える問題であることから、特定の部分ではなく、本文全体から〈根拠〉を求める意識が必要になる。

→〔アプローチ〕本文全体から〈根拠〉を求める設問では、先に選択肢文の内容に目を通し、ポイントとなる内容にチェックを入れておく。

②〔本文読解〕本文を読解する際に、内容の要点や文構造・物語の展開をチェックしておき、本文の内容を通して把握しておく。

③〔設問読解〕①でチェックした選択肢文の要点と、②でチェックした本文の要点とを照らし合わせて、適切な選択肢文を吟味する。

この際、単に文章の内容の正誤を確かめるだけでなく、文章の流れを正しく汲んだ内容説明になっているかも確認する。